

#### (4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院 連携：熊本市教育センター
コラボ研修プログラム	テーマ： 1人1台情報端末時代の保護者の役割を考える～学校と家庭で取り組むデジタル・シティズンシップ～
支援事業報告書	研修等名： NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修 1人1台情報端末時代の保護者の役割を考える～学校と家庭で取り組むデジタル・シティズンシップ～
	開催日時：令和3年8月7日 9時30分～12時 開催場所：オンライン 熊本大学（熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号） 参加人数と参加者の属性：320人 学校関係者・保護者・教職大学院関係者 他

#### 内容： 1 開会・主催者挨拶・趣旨説明

- 講演「デジタル・シティズンシップーコンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学びー」  
・今度珠美氏（鳥取県情報モラルエドゥケーター国際大学 GLOCOM 客員研究員）  
デジタルシティズンシップについて、具体的な事例を踏まえながらわかりやすく講話をしていただいた。
- 学校と保護者の連携について現状と取組を報告  
・PTAの立場から 松島雄一郎氏（熊本市PTA協議会会長）  
・保護者の立場から 水野直樹氏（一般社団法人スタディライフ熊本）  
・学校の立場から 田中慎一郎氏（熊本市立帯山中学校教頭）  
それぞれの立場から、1人1台情報端末が整備されたことよさや課題、取組が共有された。
- パネルディスカッション  
・コーディネーター 前田康裕氏（熊本市教育センター主任指導主事）  
それぞれで取り組むこと、互いに連携して取り組むことが整理された。連携する大切さが確認された。
- 開会

**成果：** 研修後のアンケート（193人回答）とても役に立った（136人・70%）役に立った（56人・29%）あまり役に立たなかった（0人・0%）役に立たなかった（1人・1%）

（自由記述）

- ・保護者が、タブレットでどんな学習をしているのか知りたいという思いを知れてよかったです。今後は、タブレットを手段に、教育課程で保護者とつながっていける取組をしていきたいと思いました。
- ・自分事として考えること、これからの社会で必要な力を育てていくという意識の大切さを考えさせられました。
- ・私は教員ですが、先生たちの研修会はたくさんありましたが、保護者の方の話が聞ける研修会は初めてで、とても興味深かったです。こんな研修が増え、一緒に考えることが当たり前になるといいなと思います。
- ・他責ではなく、みんなでよりよい社会、一人一人の幸せに向けて、使い方を一緒に考えていこうとする思いが伝わりました。
- ・教職員とともに、保護者も知識と教養を高めていかなければならないと思った。今度先生がおっしゃられていたことは、「環境は人を育てる」ことなのだと思う。世の中の大人（もちろん自分も含めて）がもっともっと学んで賢くならねばならないと改めて強く感じた。
- ・子どもも1人のデジタル機器の使い手として尊重し、双方向のやりとりの下、よりよい活用法を検討し続けることが大切と思いました。
- ・ICT活用で問題を抱えてしまう子どもは、その子どもの抱える課題、特に家庭の課題も関わっていると思います。そのような保護者や家庭への支援についても考えていくことで、二極化が防げるのではないかと思います。

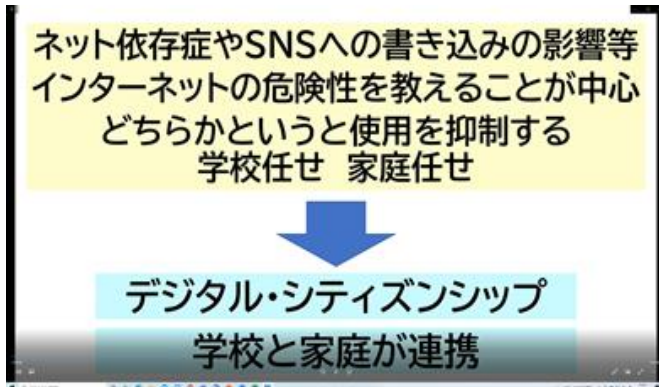
#### アイデアや工夫したこと：

- ・SNS、大学のホームページ、各学校の安心安全メール・新聞掲載等での呼びかけを充実した。
- ・デジタルシティズンシップについての第1人者である今度先生に登壇いただいた。
- ・PTA、保護者、学校現場と、立場の違う方に登壇いただき、パネルディスカッションを行った。
- ・教育センターのKumamoto EduActionの取組と連携をして行った。
- ・参加者の意見をチャットで集約し、できるだけ取り入れながら会を進めた。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。



開会 藤中教授 主催者挨拶



趣旨説明 金井准教授



講話 今度珠美氏



実践発表 松島雄一郎氏



実践発表 水野直樹氏



実践発表 田中慎一郎氏



コーディネーター 前田康裕氏



パネルディスカッション

今回は ZOOM ウェビナーでの実施ため、参加者の表情を記録することはできませんでした。